

## 第6回 ジェンダード・イノベーション 正解と解説

- A1 (1)  
\* 科学や医療の研究は「中立的・客観的」であることが大前提である。
- A2 (1)  
\* 日本社会は今、急速な人口減少と高齢化という大きな転換期にある。
- A3 (2)  
\* 男性では「胸の圧迫感」や「激しい痛み」が典型的だが、女性では「息苦しさ」「倦怠感」「肩こり」のように軽度の症状で現れることが多く、診断の遅れにつながるがあった。
- A4 (4)  
\* 女性は一般的に体脂肪率が高く、水溶性薬剤の分布量が男性より低い傾向がある。また、月経周期によるホルモン変動は薬効に影響する。
- A5 (1)  
\* 「ジェンダード・イノベーション」という考え方を提唱したのは、米国スタンフォード大学のロンダ・シービンガー教授である。
- A6 (1)  
\* 科学の世界で性差を考慮することは、決して単純に「男女を比べる」ことではない。
- A7 (2)  
\* 睡眠導入薬ゾルピデム（商品名：マイスリー）は、女性の血中濃度が男性より約2倍高く、翌朝の眠気や運転事故のリスクが報告された。
- A8 (3)  
\* 近年では、医療機器設計において「ユニバーサルデザイン」と「ジェンダーデザイン」が統合される傾向がある。
- A9 (1)  
\* マンモグラフィーでは脂肪が少なく乳腺の発達した乳房では、乳腺もがんも白く映し出されるため、がんが隠れて見落とされることがあった。
- A10 (3)  
\* 顔認証AIでは、白人男性の認識率が99%を超える一方で、黒人女性の認識率は79%にとどまるという報告がある。
- A11 (1)  
\* 薬局や病院では女性薬剤師が多数を占め、きめ細やかな服薬指導や患者とのコミュニケーション能力が高く評価されている。
- A12 (3)  
\* 東京都では男女ともに7割以上の高校生が四年制大学に進学しているが、地方では男子が4割前後、女子では3割台に留まる県もある。
- A13 (4)  
\* 地域医療の現場における多様性とは、単に男女の違いを超えて、「誰もが医療を受けられる環境をどう整えるか」という課題である。

A14 (3)

\* OECD の統計によると、2012 年時点で女性の大学進学率が男性を超えた国は過半数に達し、今も増加している。

A15 (4)

\* 2025 年度から東京科学大学に統合された東京工業大学では、理工系大学院生を対象に、社会課題解決と技術開発をつなぐ視点としてジェンダー分析を導入する授業を実施している。

A16 (1)

\* ヘルスケア産業では、女性の健康課題に焦点をあてた新しい市場が拡大しています。月経、妊娠、更年期などに関するテクノロジーを開発する「フェムテック（女性特有の健康課題を技術で解決する製品やサービス）」分野はその代表例である。

A17 (3)

\* 必要な医療的ケアは、「経管栄養（経鼻、胃ろう、腸ろう）」が 74.4%で最も多く、次いで「吸引（気管内、口腔・鼻腔内）」が 69.0%、「気管内挿管、気管切開」は 41.8%、「ネブライザー」が 40.1%であった。患児 1 人で複数の医療的ケアが必要とされている。

A18 (2)

\* 川名らの調査によると、保険薬局における医療的ケア児の調剤時間は平均 134 分となっており、通常の調剤 12 分と比べると 10 倍以上の時間がかかっている。

A19 (1)

\* 現在は多くの学校プールが屋外に設置され水道水を原水としているが、プールの水を全部入れ換えるには 10 万円単位の費用がかかるとされており、シーズン中は循環ろ過と塩素注入でその水質維持をすることになる。

A20 (1)

\* 高齢者の薬物療法を支援する上で必要な総合的知識と技能を備えた薬剤師を養成し、高齢者がより有効かつ安全な薬物療法の恩恵を受けられるようにすることを目的としている。